2026年10月22日発行　第７７３号

◆◇◆◇◆―――――――――――――――――――――――――――――◆◇◆◇◆

＊＊舩井メールクラブ＊＊

大変革を味方につけるために

◆◇◆◇◆―――――――――――――――――――――――――――――◆◇◆◇◆

今回の執筆者：富士川　碧砂（ふじかわ　みさ）さん（占い師・声優）

（富士川　碧砂さんの詳しいプロフィールは文末にあります。）

＊　　＊　　＊　　＊　　＊

《目次》

●2026年を振り返る　～大きな変革が、さらに進んだ年～
●春分図から読む2027年　～社会と暮らしはどう変わる？～
●食料・医療・雇用・防衛　～暮らしを守るために～
●乙女座の月　～不安を、暮らしを整える力に～
●つながりが未来を作る　～友好国、仲間、支え合い～
●星の動きから読む2027年　～動く時期、見直す時期～
●2026年を悔いなく締めくくるために
●2027年の開運の鍵　～干支と星が伝える、丁寧に生きる力～
●一隅を照らす　～自分の足元から、新しい時代へ～

＊　　＊　　＊　　＊　　＊

●2026年を振り返る　～大きな変革が、さらに進んだ年～

風の時代に始まった、大きな変革の流れ。

2026年は、その変革をさらに大きく押し進めた一年となりました。

1月に海王星が、2月には土星が、牡羊座へ移動。

牡羊座は、12星座の最初に位置する「スタート」の星座です。

理想や夢をあらわす海王星と、それを現実の形にする土星がそろったことで、新しい理想

を掲げ、それを実現しようとする動きが始まったのです。

そして 4 月には、革新の星・天王星が、双子座へ移動しました。

双子座は、情報、通信、教育、メディアを象徴します。

AI は急速に進化し、仕事や教育、情報発信の方法など、私たちの暮らしを大きく塗り替えていきました。

さらに 7 月には、天王星・海王星・冥王星による「小三角」が本格化しました。

革新の星・天王星。理想の星・海王星。破壊と再生の星・冥王星。この三つの星が、調和的な角度で手を結ぶ配置です。

この三つの天体による、今回と似た三角形の配置は、およそ 80 年前の 1940 年代にも見られました。

当時、世界は第二次世界大戦とその終結を経験し、それまでの国際秩序が大きく変わりました。

そして戦後には、国際連合の発足や東西冷戦の始まりなど、新しい世界の枠組みが作られていきました。

こうした歴史を重ねると、三つの天体の結びつきには、古い秩序の揺らぎと、その後に新しい秩序を組み立てていく、大きな転換の象徴と読み取ることができます。

2026 年前半には、イランをめぐる戦争が始まり、これまでの国際秩序が大きく揺らぎました。

私は、こうした国際秩序の揺らぎと再編を、この小三角が象徴する変革のテーマと重ねて捉えています。

もちろん、星の配置が戦争を引き起こすということではありません。また、この小三角は、古い仕組みを壊すだけの配置でもありません。

天王星が古い常識を変え、海王星が新しい理想を描き、冥王星が社会の根本的な再生を促

します。

破壊の後に、どのような新しい社会を作るのか。

その再構築までを考えさせる配置なのです。

2026 年はまさに、

「これまでの世界の枠組みが揺らぎ、次の時代を作り始めた年」

だったと言えるでしょう。

ここで、日本の「春分図」にも目を向けてみましょう。

西洋占星術で一年を予測する方法には、春分の瞬間のホロスコープである「春分図」を読む方法や、その年の特徴的な星の動きや流れを見る方法などがあります。

2026 年の春分図には、大きな特徴がありました。

国土や生活基盤をあらわす第 4 ハウスに、多くの星が集まっていたことです。

実際に、地震や豪雨、水害などを通して、改めて日本の国土や防災について考えさせられる一年となりました。

同時に、外国人をめぐる問題や、土地、食料、安全保障などを通して、

「日本とは、どのような国なのか」

「日本の国土と暮らしを、どのように守っていくのか」

という問いにも、国民の意識が強く向かいました。

2026 年は、新しい時代へ向かって大きな星が動き、世界も日本も、古い仕組みから新しい仕組みへと歩み始めた一年だったのです。

そして、この変革の流れは、2027 年にさらに本格化していきます。

●春分図から読む 2027 年　～社会と暮らしはどう変わる？～

激動の 2026 年も、残りわずかとなりました。

ここからは、2026 年に始まった変革がどのような形で私たちの暮らしに入ってくるのか、2027 年がどのような年になるのかを、考えていきたいと思います。

先にお話しした「春分図」、そして一年を通した「星の流れ」から、2027 年を読み解いていきましょう。

もちろん、占星術は未来を一つに決めつけるものではありません。星の配置を通して、これから起こりやすい社会の流れを考え、その中で私たちがどう動くかを見つめる。一つの「時代の読み方」として、お付き合いいただければと思います。

「日本はどうなる？から、私はどう生きる？へ」

2027 年の春分図では、第 1 ハウスに太陽、海王星、土星が入っています。

太陽は国の中心や首相、海王星は夢や理想、ビジョン、土星は制限、法律、責任をあらわします。

2026 年の春分図では、太陽は第 4 ハウスにありました。第 4 ハウスは、国土や自分たちの拠り所などを象徴します。この第 4 ハウスには、国民感情をあらわす月もありました。

2026 年は、「日本という国はどうなるのか」「日本人として、私たちはどうなるのか」という、集団としての問題を考える年でした。

国も私たちも、「日本はどうあるべきか」を考える年だったと思います。

2027 年は、そこから一歩進みます。

春分図の太陽は第 1 ハウスへ。そして、国民感情をあらわす月は第 6 ハウスへと、位置が変わります。

太陽が第 1 ハウスにあることからは、国が自らの方向性を示し、主導していこうとする姿が読み取れます。そこには、理想をあらわす海王星と、現実をあらわす土星もあります。

一方、月が位置する第６ハウスは、防衛、労働、医療など、日々の暮らしを支える働きに関わる領域です。本稿では、食料の供給や生活基盤を維持する仕事にも目を向けながら、読み解いていきます。

占星術的に見ると、国がこれまで以上に主導権を持ち、日本を「こうあるべき」という方向へ導こうとする流れが強まりそうです。

一方、国民には、「私の生活はどうなるのか」「私の人生や仕事はどうなるのか」という、より個人的で、暮らしに直結した切実な問題が投げかけられていくでしょう。

国に理想やビジョンがあっても、それが国民の日々の実感とは結びつきにくいところがあるかもしれません。

私が最近の鑑定で感じるのが、「漠然とした不安」です。

以前なら、「結婚できますか？」「どんな仕事が向いていますか？」など、形のあるご相談が多かったのです。もちろん、そうした悩みがなくなったわけではありません。

でも最近は、「不幸になりませんか？」「お金は大丈夫ですか？」などの漠然としたご相談が増えました。

「会社の業績が悪いのですか？」「何か今、問題が発生しているのですか？」とお聞きすると、「いいえ、今はそんなことはないのですが、心配で……」とおっしゃいます。

時代の変わり目であることを多くの人が感じ、「今は大丈夫だけれど、これがいつまで続くのだろう」と、なんとなく不安なのです。

国は日本という単位で物事を考え、国民は「暮らし」「自分」という足元の単位で、「なんとかしなければ」と思いながら、何をしたらよいのかわからずにいます。

先が読めない時代です。国任せにするのではなく、自分の人生については、自分で考え、選び、形にしていく必要があります。

だからこそ、不安を少しでも安心に変えるための備えには、意味があります。足元を固めるために、今できることを、ぜひ少しずつでも形にしていっていただきたいと、私は思っています。

（※この続きは、【舩井メールクラブ】の会員様サイトからお読みいただけます）

《今回の執筆者：富士川　碧砂さんのプロフィール》

●富士川　碧砂（ふじかわ　みさ）●

占い師・声優

フジテレビ『突然ですが占ってもいいですか？』『とくダネ！』月曜占いコーナーに出演！声優・寺瀬今日子としても 35 年のキャリア。臨死体験を機に、霊能者である祖母の血が覚醒。オーラ透視の能力を得る。その後、西洋占星術、タロット、易、風水など、さまざまな占いの研鑽を積む。また、和の世界にも造詣が深く、開運和柄商品の実業でも実績を上げている。声優・寺瀬今日子としては、青二プロダクション所属。フジテレビ「とくダネ！」「進撃の巨人」モーゼスの母役など出演作多数。

最新刊は『幸運が舞い込む浄化・邪気除け生活 ―「スマホ風水」は最強の開運法』（さくら舎）

各種 SNS

https://lit.link/fujikawamisa
